



2025 明治安田 J3 リーグ 第 19 節
7/6 (日) 19:00 kick off
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest

SC 相模原

順位表 6/29現在 基本 18試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	FC大阪	39p	+19	32	13	A△
2	栃木 C	37p	+11	26	15	A●
3	宮崎	34p	+9	26	17	H●
4	八戸	34p	+9	20	11	H●
5	鹿児島	28p	+9	31	22	A●
6	北九州	27p	+4	18	14	HO
7	奈良	27p	+2	22	20	A△
8	高知	24p	-1	29	30	H△
9	栃木 SC	23p	0	14	14	H●
10	松本	23p	-3	20	23	H△
11	福島	23p	-11	30	41	A●
12	金沢	22p	-3	19	22	H●
13	鳥取	22p	-3	15	18	A●
14	相模原	20p	-5	19	24	
15	群馬	19p	-5	24	29	A△
16	琉球	19p	-5	14	19	A●
17	長野	19p	-7	16	23	AO
18	岐阜	17p	-7	21	28	---
19	讃岐	17p	-7	15	22	HO
20	沼津	14p	-6	14	20	HO

次回HomeGame

第21節 vs.奈良クラブ

7/21 (月.祝) 19:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつで一杯
煮込み珍道中
14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)
※売り切れ次第、終了です
＜定休日:日曜・祝日＞
TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約 10 分

★

アミカ

ドミ
イン



JR
岐阜駅

通算対戦成績	全 8 試合 (J3: 8 試合) 岐阜 2勝 / 相模原 2勝 / 4分け Jリーグ岐阜ホーム戦：2勝1分1敗			
直近の対戦結果	2024/09/14 岐阜 1-2 相模原 得点者:イ ヨンジェ J3 - 28節 @長良川			
ここ 3 試合の 公式戦の 結果	岐阜	2025/06/28 J3 - 18節 @沖縄県陸 琉球 1-0 岐阜	相模原	2025/06/28 J3 - 18節 @ギオンズ 相模原 3-1 沼津
		2025/06/21 J3 - 17節 @長良川 岐阜 2-3 宮崎		2025/06/21 J3 - 17節 @ゴースタ 金沢 0-0 相模原
		2025/06/14 J3 - 16節 @長野 U 長野 1-2 岐阜		2025/06/14 J3 - 16節 @ギオンズ 相模原 0-0 高知

● J3 リーグ 2025 シーズンも、もうすぐ折り返しを迎える。FC 岐阜は、J3 のシーズンでは、かつてないほどチームが低迷して苦しみ続けている状況だ。6/21 (土) 第 17 節・ホーム宮崎戦は、前半に 2 点を奪われてしまうが、前半終了間際に 2 点を奪い返して後半へ。その後も岐阜に決定機が生まれるが決められないと、宮崎に決勝点が生まれて 2-3 での敗戦。続く 6/28 (土) 第 18 節・アウェイ琉球戦は、序盤から琉球がボールを支配して攻勢をかけ、岐阜が守る展開に。後半になると岐阜に流れがくる時間帯が増えたが、それでも試合を優位に進めた琉球に、守り続けた岐阜のゴールをこじ開けられ、0-1 で敗戦となった。

この 2 試合で連敗した結果、FC 岐阜の順位は 14 位から 18 位に低下。19 位 (= JFL との入れ替え戦が想定)・讃岐とは総得点で辛うじて上回っているだけで、20 位 (J3 会員喪失枠)・沼津との勝点差も、わずかに 3。そして、一般的に“残留ライン”と呼ばれる、『1 試合あたり勝点 1 を積み上げる』ことが、この時期になっても達成できていない。したがって、非常に残念ながら、今季の FC 岐阜は『J3 残留争いをしている』と言わざるを得ない。そんな危機的な状況下で、ついにクラブは 7/2 (水)、大島康明監督との契約を解除すると発表した。後任の監督に関しては未定とのことだが、クラブ全体で、まずは J3 残留を確定させるために、早急に新体制を確定させ、そして今後はどんなサッカーをして勝点を着実に積み上げてゆくのか、速やかに改善を図ってゆく必要があるだろう。ただし、岐阜の上位を見ると、勝点差 6 には 9 位・栃木 SC がいる状況だ。首位・FC 大阪と 2 位・栃木 C の 2 チームが抜け出して、一般的に“昇格ライン”と呼ばれる『1 試合あたり勝点 2 の積み上げ』を達成し、また 3 位・宮崎から 7 位・奈良までの 5 チームが後を追っているが、今季の J3 は、いまだに中位から下位が大混戦の中にあるということもできる。そして、早いもので今節が 2025 シーズン前半戦の最終戦。今節のホーム戦は、後半戦での新体制での巻き返しに勢いをつけるためにも、何としても勝利しなくてはならない。なお、7/7 (月) から 8/20 (水) までは第 2 登録期間 (ウインドー) が開く。クラブの選手補強の手腕にも期待したい。

さて、今シーズン前半戦の最終戦となる、今節の対戦相手は SC 相模原だ。2021 年には J2 を経験したが 1 年で降格し、今季は 4 季目の J3 となるチームだ。昨季は 6 月に戸田和幸監督からシュタルフ悠紀リヒャルト監督に交替したが、最終順位は 9 位。今季はシュタルフ監督 2 季目体制で、大幅に選手を入れ替えて臨んだが、直近 5 試合でも 1 勝 3 分 1 敗・8 得点 8 失点と、なかなか結果が出せずに現在の順位は 14 位。そして岐阜との勝点差は 3。つまり、今節は“6 ポイントマッチ”でもある、絶対に負けられない戦いだ。なお、相模原は 6/11 (水) に開催された天皇杯 2 回戦で、J2・磐田に劇的な逆転勝利を挙げている。きちんと実力は備えているチームと見るべきだろう。

相模原との通算対戦成績は、2 勝 4 分 2 敗・9 得点 9 失点と、完全に互角だ。直近の対戦である、昨季 9/14 (土) 第 28 節・ホーム戦は、前半にセットプレーで先制したものの、直後に追いつかれ、試合終了間際に失点して 1-2 での逆転負け。今節こそは、岐阜の勝利でシーズン前半戦を飾りたい。

相模原で最も警戒すべき選手には、現在 5 得点の #9 ラファエル・フルタドを挙げる。シーズン序盤は調子が上がらなかったが、徐々にチームにフィットし、前節の沼津戦ではハットトリックを達成。このブラジル人 FW を封じることが重要だ。また、コンビを組む #11 武藤雄樹も 4 得点。JFL 時代からの岐阜サポには、個人的な思い入れを持った者が多い選手ではあるが、今節は活躍させる訳にはいかない。一方の岐阜では、相模原に在籍 (2021 ~ 2022 年) していた #5 石田峻真の活躍に期待したい。

なかなかチームの調子が上がらずに苦しんでいる岐阜。そんな状況のチームの特效薬は、やはり勝利だ。そのためにも、このホームスタジアムの利を活かして、僕ら FC 岐阜サポーターが、チームの後押しを続けよう。最後までチームの勝利を信じて、時には叱咤激励しながら、チャントや拍手で、走り続ける選手たちを鼓舞しよう。そして今節こそは、選手たちと共に勝利の歓喜を分かち合い、万歳四唱そして“HYPER CHANT”を、このホームスタジアム・長良川に響き渡らせよう。(ささたく)

おことわり: 7/4 に、クラブから新監督として石丸清隆氏の就任が発表されましたが、当紙面では反映させていません。ご了承ください。

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第17節】岐阜 2-3 宮崎

●一言で言うと、現時点でのチームとしての完成度、習熟度の差なのかなあと。

3バックにシステム変更して初めて見る岐阜の試合。やっぱりこっちの方がしっくり来るかなあ。選手もやりやすそうに見えたね。結果は残念だったけど、あまりストレスなく見る事ができたかな。これから日々の練習で3バックの習熟度を上げていければどうにか戦っていけるかと。気になったのはドウドウのフィジカル。なんだか重そうに見えた。まだまだベストには程遠いのか？ 90分フルで出るのは望むべくもなさそう。西谷亮がメンバー外だったのも気がかりだが。

宮崎はほんとにまとまっているチーム。とにかくよく走る。また聞きだけど、宮崎サボさんからの話では、練習でもひたすら走ってることも多いとか。大熊監督、良いチームを作り上げてきてるなあ。ここまで11試合負けなしというのは伊達じゃないね。

この日は古橋亨梧選手が今年もご来場。僅かなオフの時間を割いて来てくれて本当に感謝。現役の最後は岐阜か神戸で引退したいみたいなこと言ってるみたいなんで、また帰ってくるのを待ってます（笑）。入場者数が6000人超えだったのは間違いなく古橋効果だったんだろうね。

そして園部会長、今まで本当にありがとうございました。これからもこのクラブをずっと見守って頂きたいです。（岐阜の誇り）

●岐阜のスタメンは、勝利した長野戦と同様に3バック（5バック？）の布陣で、ほっとしました（苦笑）。一方の宮崎は、キャプテンでエースの#11 橋本啓吾がベンチ外。これはまた移籍か……と思ったのだけど、次の試合ではフル出場してるから、単にコンディションの問題だったのね（笑）。さて、試合は序盤から現在3位・宮崎が（当然ながら）優勢に。んで、前半に2失点。いずれもハイボールのクロスからで、なんだか僕にはGK#31 セランテスとDF陣の連携が上手くいっていないように感じてしまいました。まあ2失点目は、あれは宮崎の準備してたセットプレーだったようで、完全に裏をかかれたってのも要因だと思うんですが……（溜息）。んで、今日の試合は厳しいかなあと思ったら、急に攻撃のギアが上がる岐阜。前半45分に#11 佐々木快の2試合連続ゴール、そして前半ATに#22 文仁柱のシュートが弾かれたところに詰めた#24 栗飯原尚平の同点弾！この逆の展開なら何度も喰らった記憶があるんですが（苦笑）。そして、やっぱり#11 快はワンタッチゴーラーなんだと再認識。後半に入っても決定機があったけど、決められない。あれを決めてたら、今日のヒーローは#22 ムン君で決定だったんだけどなあ……僕はガッツポーズしかけて、（ボールが外れたので）椅子に崩れ落ちました（苦笑）。そして、決定機を外すと相手に決定機が移るのは、サッカーでは良くあること。というか、さすが3位・宮崎と言うべきなのかしら。きっちりセットプレーで沈めてくるんだもんなあ……。J1クラブから優秀な若手選手を数多くレンタルしてるとはいえ、予算規模では、宮崎は岐阜の半分ぐらいだったはず。どういう強化方針を立ててるのか、教を請わないといけないんじゃないかしら（溜息）。岐阜の選手たちも、この試合ではよく戦ってたと僕は思うけれど、やはりサッカーの（練度の）違いと言うべきか。順位の違いが明確に出てしまった試合結果だった。（ささたく）

●う～ん、『惜敗』と言っていいのか、どうか。いや、今、出来るコトを精一杯やってくれた、とは思える。もちろん、満足はしていない。実際、キックオフ直後から相手との差を見せつけられた思い。空いたスペースでフリーになってる味方への正確なパス。それがきちんと繋がっていく。逆に、ホーム・チームの雑さ加減が悪目立ち。やっぱり、上位は違うワ……と思ってたら、そのまま先制されて、追加点を決められて。最近の状況から「あー、今日もか……」などと気落ちしたら、

スッコーンって感じで得点を決めてくれて。えーっ！となっていたら、なんと、前半のアディショナルタイムに追いつくとか。ウチがやられたのは何度も見たけど、やり返したのは今季初。その勢いのまま始まった後半の早いうちに勝ち越し出来てれば……というところだったんだが。結果的に現時点での差が出た感じ。

無論、決勝点を奪われた場面でのヌルいパスや守備にオカムリなボクだけど、それ以外には納得だ。決して、残留へのメドが立ったワケじゃない。だけど、これまでのような徒労感も絶望感も、今のところは芽生えていない。「悪くなかった」とは到底言えないが、次の試合も……、あ、沖縄か。観に行けないな。ごめんなさい！頼んだよ？>現地組（ぐん、）

●第15節のアウェー鹿児島戦と同じ2-3の負けながら、この『手応え』の差はなんだろう。鹿児島戦ではリードしていた時間が2回もあって、この宮崎戦では1回もなかったというのに。スコアとは別の「戦えている」印象の差に他ならない。天皇杯・湘南戦から始めた3バック。3枚のDFとWBの距離が近くなり、雑なパスミスによるボールロストが減った。WBが上がった裏をボランチがカバー出来ている状態も多くなった。要は「バランスがよくなった」のだ。とはいえ、実態は3失点。この原因を岐阜に求めるのは簡単だけど、それは決して3バックという「仕組み」に問題があるのではなく、3バックを運用した時間の短さ、つまり「チームの完成度」の違いだ。宮崎は後半になって明らかに脚が止まった。にも関わらずセットプレーから勝ち越すと5バックにべったり退いてスペースを潰しに来た。泥臭く勝ちに来たわけだ。そこをこじ開けるだけの力は、いまの岐阜にはまだないということだね。

とにかく、このやり方だと「ちゃんと戦える」ということは見えてきた。前回に配布した『岐大通』の鹿児島戦レビューでは自力残留を諦めたけど、あの試合は4バックだったんで許してほしい。いまは「自力残留はなんとかかなるかな」に格上げだ。もっとも、近くに雷が落ちたり神の啓示を受けたり前世の記憶が戻ってきたり（笑）で監督が「そうだよ、俺は4バックがやりたかったんだよ！」と開眼しちゃったりしたら話は別なのだが……ところで、今回の3バック変更は本当に大島監督のデザインなのだろうか？（吉田铸造）

【第18節】琉球 1-0 岐阜

●まだ6月だというのに、既に猛暑の日本列島。この日の沖縄も、18時K.O.なのに気温が30度超え。そんなタフな環境と、攻撃陣の人数が少ないからか、岐阜は（おそらく）省エネ作戦に。それにしても、#19 松本歩夢がアキレス腱断裂、#8 荒木大吾と#15 山田 直輝と#17 長井結矢が怪我、#16 西谷亮も最近ではベンチ外、そして#24 栗飯原尚平が累積警告で欠場では……（溜息）。早急に攻撃陣を補強しないと、流石にマズくない？そして、相手にボールを保持させて、コンパクトに守って体力の消耗を抑える作戦そのものは、理解できる。だけど、ボールを奪った後のプレーが、あまりにも雑で。味方の居ない場所に蹴っちゃって、すぐに相手にボールを回収されて再び攻撃されるから、守備の時間帯が多くて、逆に体力の消耗が多くなってるような気がした。もう少し、サイドでボールを運んで攻撃の時間を増やして、守備陣が休めるようにしてもよかったように思えたんだけど……。そして、ジリ貧の試合展開は、ひっくり返すことができないまま、琉球にゴールをこじ開けられてしまう。もっと、例えば5バックで完全に5レーンを塞いでしまおうとか、何か方法があったように思うんだけど……難しいところですよ。これまでアウェイ（沖縄）の地では無敗だったけれど、この試合で初勝利を献上。琉球は今季初の連勝、そして4/5（土）以来のホーム戦の勝利。岐阜と順位も入れ替わり、那覇市の国際通りは相当に盛り上がったいたとか。ウチも、そんな楽しい夜を経験したいですねえ……。 （ささたく）

●兎にも角にも、お疲れ様でした>現地組。
(現時点での、という前提はあるが) 残留争いをしている相手との6ポイント・マッチに負けてしまったコトは実に痛い。それでも、つきあいのいいライバル?のおかげもあり、結果としては入れ替え戦圏内にも入っていないのはラッキーだ(得失点差ですらない) 首の皮一枚の差ではあるけれども、ね。目標を『残留』に絞れば、まだまだ、道は閉ざされてはいない。生き残るためにも、フロントは選手はもちろん、監督を始めとするスタッフをフォローしてほしいね。え?この期に及んで解任……、あ?今月末の相模原戦が終わったら、3週間ほど間隔か空くのか……。何にもない、とは言えないかもね? ああ、監督がサポの前に出てこないコトなど多々ある話。いろんな監督がいるワケだ。勝ったら来るけど負けたら来ないなんてのもいたワケだ。また、何も語らないけど、選手がいなくなるまで待って、深々とお辞儀をしていくヒトもいたし、惨敗の後に「まだ、3日だから。」(心配しないでの意)と答えたヒトもいる。逆に、何を言っても、何の保証もないワケだ。とにかく『残留』してくれば、今季はOK。リアルタイム観戦すら出来なかった自分が言えるのはコレくらい、かな。(ぐん、)

●ぼくは現地観戦だったのだけど、この試合は配信視聴の方と現地組で捉え方がだいぶ違うのじゃないか、という気がする。いや、現地で観てたら「岐阜にも勝つチャンスがあった」とか、そんなんじゃないくて。とにかく気温の問題じゃないのよ、現地の気候は。岐阜は暑いけど「暑い」だけ。でも、梅雨明け後の沖縄って、雲に隠れずに日が出ていると「全体を覆うどうしようもない『暑さ』」の上からさらに『熱さ』の熱射攻撃を絶えず仕掛けてくる、というような。試合開始1時間前に選手が挨拶に来てそれからアップを始めるのだけど、アップはいいから日陰で休んで?と思ってしまうくらい。試合開始時刻になると雲が熱射を遮ってくれる時間もあったけれど、まあとにかくキツイ。(ここで引用していい表現か迷うけど) 文字通り『命どう宝』だと試合開始までぼくは日陰に逃げてました。なので、大島監督が「クリーンシート」と割り切って、最初から5-4-1の低めのブロックを敷いて、そりゃ琉球に支配されるし撃たれるだろうけど、退いた相手に撃ち抜けるなら琉球もいまの順位にはいないわけで、「シュートなど、入らなければどうということはない!」と、某アニメの『赤い彗星』さんのように居直るというのは間違っていないと思った。前半は攻撃が散々、ただロングボールを蹴り出して行くだけになったのも、徹底的な省エネ自衛策だったんじゃないか。もちろん、誤算はあった。敢えて名前を出すけどコーダイだ。いつもは安定感のある狩りを見せてくれるけど、この日は『ピンチの起点』になったことが前半から何度か。おそらくコンディションがよくなかったんだらうね。彼のところで奪われると、一気に仕掛けられて3CBの負担が増えてしまう。後半になると直接FKのチャンスが2回。しかし、ここでこの試合の2つめのディスアドバンテージ、あいちゃんの出場停止が効いてくる。代わってスタメンのジローが2発とも狙ったけれど残念ながらコースアウト。そして、試合前アップから選手を上から焼き付けていた環境攻撃で岐阜守備隊が堪えきれなくなってくる。80分に決勝ゴール。ゲームプランの崩壊だ。なんとか同点に追いつこうにも、上記のごとくあいちゃん出場停止なので、これまでの実績から「ジャンボ宝くじを1枚だけ買ったならそれが1等になる」くらいの確率でしか結果が出ないだろうFW選手を投入するしかなく、実際に何も起きずに試合終了となった。ついに9戦目にして琉球戦初敗北。でも、こんだけやってりゃ負けることだってあるし、この日の敗戦の理由は簡単。『始まる前から勝てる試合じゃなかった』。逆に、大島監督の姿勢はぼくは評価してますよ、この試合限定だけど。どうしたって手詰まりにしかならない環境で、なんとか勝ち点1は持ち帰ろうと、ご自身が開幕戦の後で主張していた「3枚のMFが

流動的に動く」サッカーとやらを綺麗に捨て去って、べったりこんのドロー狙いに徹した。それが、最後まででは出来なかった、というだけだ。試合後の選手の挨拶でコール隊が「エフシー、ギフ!」のコールを切らなかったのは残念だけど、彼らだって相当厳しい環境でコールしていたのだし、思うところがあったのだろう。それについてはぼくは「外の人間」なんで、残念だったという感想で終わりにします。いや、ホントに皆さん(選手もサポも)お疲れさまでした。ぼくの中では『秋春制』支持の割合がかなり増えました。(吉田铸造)

【7月になりましたので】現時点のJFLの状況。

●JFL=J3の入替は、戦績(2位以内)の他に入場者数(1試合平均2,000人)、そしてJ3ライセンス取得も関係してくるので、それを踏まえた考察を行います。第14節終了時点。

1位: 沖縄	勝ち点 31	351 人	ライセンス未確認
2位: 青森	勝ち点 27	1,495 人	◆ライセンス申請済
3位: Honda	勝ち点 26	938 人	
4位: V大分	勝ち点 25	1,181 人	◆ライセンス申請済
5位: 滋賀	勝ち点 25	1,914 人	◆ライセンス申請済
6位: 枚方	勝ち点 21	710 人	ライセンス未確認
7位: 鈴鹿	勝ち点 19	670 人	◆ライセンス申請済
8位: 岩手	勝ち点 18	1,456 人	ライセンス未確認
9位: 三重	勝ち点 18	2,198 人	◆ライセンス申請済

ライセンスというのはクラブの経営・運営の指標なので、よほどの問題がなければ前年度に通っていたところは通ります。降格組の岩手は公式サイトでは申請の有無は公開されてないですが、たぶん出しているでしょう。注目は青森。平均入場者数が約500人足りないけれど、ここは寒冷地なのでホームゲーム開催が少なく(まだ5試合しかやってない)これから大逆転の仕掛けをすることが可能。もっとも、昨年の高知と違い青森県は南部側には既にJチームがいるわけですし、津軽側の中心・弘前にもJ参入を目指して東北リーグを戦うブランデュー弘前というチームがあるので、どれだけ観客動員を上げられるかは未知数。要警戒は滋賀でしょう。ここは全県体制を作りやすい環境にあるので後半の大仕掛けも可能。逆に三重は観客動員的には成功している(新宿に次いで2位)ものの、成績がついてこないという悲しい事態。というか、降格組の岩手が成績面でも観客動員面でも昇格ゾーンと距離が出来ているというのは『恐怖』でしかない。YS横浜も観客動員は岩手と同程度で、成績は13位。JFLこわい。こわいよこわいよ。(編集人・吉田铸造)
※観客動員数のデータはFC公園さま(@J_football_xxx)公開のものを使用しました。ありがとうございます。

大島監督の解任が決まりました

●大島監督の退任が発表された。この成績では致し方ないところではあるし、なぜもっと早く決断できなかったのかという思いもある。結局最後まで彼の理想とするサッカーが選手たちに浸透することにはなかった。彼らのスキルが追いつくことができなかったという点もあるかもしれない。また、怪我人等でベストな布陣をなかなか組むことが出来なかったという不運もあったりはしたが。そして監督交代ですべてを終わりにすることは絶対にあってはならない。今回のことをきちんと総括して今後活かしていかなければならない。ともかくサポーターの我慢は限界に達しているのだ。

まずは降格圏から脱して、地道に順位を上げて安全圏に持っていきたい。昇格だなんだということは二の次三の次だ。(岐阜の誇り)

●7/2 (水)、クラブから大島康明監督の退任が発表された。『双方合意のもとで契約解除』なので、違約金等は発生しないが、事実上の解任と見るべきかもしれない。僕個人としては、『現在の成績を考えれば、来るべき時がようやく来た』という感覚だ。

以前から『岐大通』で指摘しているように、大島監督の“やりたいサッカー”は、残念ながら、現在の岐阜の選手たちでは、“やれるサッカー”ではないと僕は思っていた。特に両SBがレーンすらも自由に動き回るのが特徴的で、その選手が効果的に攻撃に参加できれば長所だけれど、その空けたスペースを相手に狙われてしまい、逆に弱点になり、CBに負荷がかかりすぎる点などが、それだ。今季の保有選手が比較的少なかったこと、そして怪我人が多く出てしまっていたことは不運だったが、それでも、結果を出せなければ、こうなるのがプロのトップチーム監督の宿命だ。大島康明監督、お疲れ様でした。さて、後任の監督は未定とのことだが、あらためてクラブに要望したいことがある。それは、『まずは、現行戦力で“やれるサッカー”を目指してください』ということだ。残念ながら、僕らはJリーグとはいえ、一番下のカテゴリーだ。獲得できる選手には限りがあるし、有望に育った選手は、上位カテゴリーのクラブに引き抜かれてしまうのが実情だ。もちろん、クラブとして“目指すべきサッカー像”を確立したいのは理解できるし、そういう目指したいサッカーは、“ボールが動くサッカー”だったり、“攻撃的なサッカー”だったりするのも共感できる。だけど残念ながら、そういうサッカーは上位カテゴリーレベルの選手が揃わないと実現しない。現時点では、限られた“配牌”で、どんな役(サッカー)ができるのかを、しっかり考えて実践するような体制をとってほしい。つまり、理想(ロマン)よりも現実(リアル)を重視してほしいと、切に願います。特に近年、ウチが招聘する監督は、ロマン派が多くて、それで失敗しているような気がしています。もっと現実路線(フィジカル路線と言ってもいい)にすべきだと、僕は思っています。(ささたく)

●今回の件に関して感想を述べるに当たり、まずは大島監督にお礼と労い言葉を送ります。岐阜に来ていただきありがとうございました。結果が出なかったことは残念ですし、迎えたこちら側にも足りない点が多々あったことは想像に難くありません。本当にお疲れ様でした。今後のご健勝とご活躍をお祈りします。

さて、改めて、今回の公式リリースを受けての感想を述べたい。即座に脳裏に浮かんできたのは「今さら？」という思いと、底が見えない「ガッカリ感」。ココまで引っ張ってきたからこそ、大島さんで貫き通して欲しかった。『攻撃的な、見ていて楽しいフットボール』。そのために選んできた監督だったハズでしょう？

忘れもしない、今季開幕直後のとある集い。参加者からの事前質問にあった「スクラップ&ビルドを繰り返して……」という言葉に対し参加者が「呆氣に取られる」くらい、熱く反応されてたフロントの幹部がおられた。Jリーグ参入以前から、ずーっと関わってきた参加者からの質問の、単なる導入の部分(少なくともボク自身には「積み重ねのない、常に更地な状態。もしくは、継ぎ足しまるけの歪な建物。」に見えてしまう。そういうのを含めて、ウチはずーっと『スクラップ&ビルド』と呼んできた……と思ってた。)に敏感に反応されておられたが、今回の件については次回の『とある集い』で質問してみたい気持ちに囚われているよ。「今回のこともスクラップ&ビルドではないのですか？アナタにとってのスクラップ&ビルドを教えてください」と(苦笑)。

これで後任の監督が「塹壕に引き籠もってのカウンター戦術」を採用する方だったら、その臨機応変ぶりには思いっきり拍手をしたい。むしろ、J3で生き残るためには失点を減らすコ

トは必要不可欠な選択だとは思う。今から、新たな攻撃的戦術を落とし込めるような監督が今頃フリーでいるとは思えない。いや、いたらラッキーだけど。

あくまで、個人的な憶測に過ぎないが、昨季に天野さんを長らく『暫定』で引っ張ったのは、その頃から大島さんありき、だったからだという気がしてる。結局、条件が折り合わなかったから、やむなく『暫定』を外したが、最後まで夢を見させてくれた指揮官を切ってまで迎えた人物であるならば、最後まで添い遂げてみせて欲しかったよ。もちろん、相手があるワケだし、思い描いていたような結果が出ないコトはいくらでもあるのもわかってる。だけど、前年から準備してきた人物を、こんなに簡単に切ってしまったら、今後、ウチを選んでくれる指揮官はいなくなるんじゃないのかな？いや、現時点でも、指導者クラスには印象の良くないクラブになってる気がするんだけどね(苦笑)。

参入した頃には「岐阜にだけはゼツタイ行かない。行くくらいなら引退する。」くらいのことを言った地元出身のJリーガーがいたけれども、今はそれなりの報酬が払えるようになったから、そこまで選手に嫌われてはいないだろう。そう思ってたけど、指導者クラスには今後ますます敬遠されるようになるかもね？守ってくれないフロント。そんなイメージだけが先行しないコトを願っております。いずれにせよ、「またまた、ヘタを打ったな。」という感想にしかならなかったのが残念だよ。

でも、まあ、誰が監督になっても「ここから昇格！」よりは「ここから残留！」の方がハードルは低いんじゃないかな？そう思いたいし、そうなるコトを祈ってやまない。ゼツタイ、残留！！(ぐん、)

●開幕戦(アウェーFC大阪戦)の試合後の囲み取材で大島監督は『3MFがより流動的にプレーするためのプレーモデルを構築している』と話していて、通い慣れた道を今年も歩くのかしら……と不安になった(『岐大通』にもそう書いた)。嗚呼、なんでこういう方面だけ嗅覚がいいのか(苦笑)。そして今季もシーズン途中で監督解任というわけだ。J3に落ちて6年、一人の監督がシーズン通して指揮をしたのが2年め(2021年)の安間さんと4年め(2023年)の上野さんだけ。安間さんは1年で辞めているので、継続性をどうの言えるのは上野さんだけということになる。『選んだ監督がダメ』ではなく『監督の選び方がダメ』と喝破していいのではないだろうか。糾弾されるべきはシーズン途中で解任になる監督ではなく、シーズン途中で解任になる監督を選んだフロントだ。SNSで誰かが書いていた「J3は『何が出来るか』ではなく『何が出来ないか』を基準にチームを作らなければならない」との意見と、ぼくの見解はまったく同じ。プロリーグとはいえ、J3は『最底辺』。「攻撃的なサッカーを目指します」と小松社長が前年最終節の挨拶で話していたけれど、ならば「攻撃的なサッカーが出来る選手」を『最底辺』プロリーグで揃えないといけない。実際、「攻撃的なサッカーが出来る選手を揃えました」と言い切れるのは昨季の大宮くらいだろう。飛距離と飛型点の合計で争われるスキー・ジャンプと違い、サッカーは得点と失点の差を争う競技だ。スタイル(の美しさ)は目的でなく手段でなければならない。「3MFがより流動的にプレーするためのプレーモデルを構築」出来たら1試合の勝ち点が4になるわけでも、ドローの勝ち点が2になるわけでもない。にも関わらず、そういう志向の監督が岐阜にやって来ては、志半ばにも至らずに去っていく。もっぺん書く。『選んだ監督がダメ』ではなく『監督の選び方がダメ』。監督の選び方がダメではないとするなら、意図を持って『勝ち点が取れない監督を選んでいる』との解釈も可能だ。「クラブは昇格なんかしたくない」ってことになるが……さて、本当のところはどうだろう。小松社長がシーズン終了時の挨拶で「降格のお詫び」でなく、来季に向けてどんなカタカナ単語を持ち出してくるのか、これを愉しみに出来るように、今季の残りは『残留原理主義』で行きましょう。(吉田鑄造)